

## 第4回認定神戸歴史遺産

2025年2月3日に4件を認定しました。

### 15. 住吉川の水車小屋跡(上流左岸八輛場・五輛場地点)

住吉川は六甲山系中では豊富な水量があり江戸時代から水車による絞油や精米などが盛んに行われてきました。酒造業の活況により数を増やし、大正時代には80輛もの水車がありました。その後は時代の変化により減少し、1979(昭和54)年を最後に住吉川の水車小屋は姿を消しました。現在は、水車小屋跡の石垣や水車が回っていた水路跡などが残っています。申請団体は当地の草刈りなどを行うとともに、見学会や勉強会を実施し、神戸の地場産業を支えた水車小屋の存在を広く知っていただく活動を行っています。



◎水車を未来につなぐ会

### 16. ヴォーリス六甲山荘(旧小寺家山荘)及びその周辺

ヴォーリス六甲山荘は、有名なヴォーリス設計事務所の設計による1934(昭和9)年建築の山荘で、「六甲山荘(旧小寺家山荘)」として国の登録有形文化財に登録されています。この建物周辺の景観は大正時代から現在までの別荘地として、六甲山の山荘文化の特徴を色濃く残しています。また敷地内には、明治時代における神戸の地場産業でもあった製氷の溜池跡もあります。申請者(所有者)はナショナルトラストにより「六甲山荘(旧小寺家山荘)」を購入し、これらを後世に伝えるために意欲的な活動を行っています。



◎アメニティ 2000 協会

### 17. 幸殿社本殿 撰社 灯籠 堀 鳥居 手水鉢

幸殿社は、1752(宝暦2)年7月、旧野田村の鎮守として創建されたと伝わり、当地の産土神として地域の人々に崇敬されてきました。石灯籠の銘や特徴ある亀甲積みうぶすながみの堀の築造時期から、境内は昭和初期に一度整備されたことがわかります。本殿と鳥居は1960(昭和35)年頃に再整備されたとのことで、代々地域の方々によって大切に守られてきました。

地域のつながりを強めるための核として、また旧野田村のシンボルとして将来にわたり守り継いでいくことを地域の方々には考えておられます。



## 18. 神戸市電車 700 形 (705 号車)・800 形 (808 号車) 及び車両図面等関係資料

神戸市電はかつて「東洋一の市電」と呼ばれ、1910（明治43）年の開業から1971（昭和46）年の全線廃止まで、明治から昭和にかけて神戸発展の一翼を担っていました。車両は大正以降、長田工場にて自家製作していました。700形（705号車）は1921（大正10）年製造の車両を1936（昭和11）年に改造したものです。市電として日本初のクロスシートを採用し「ロマンスカー」と呼ばれて人気を博しました。800形（808号車）は1937（昭和12）年に製造された700形に続く戦前最後の新造車です。この2両と車両図面等関係資料は地下鉄名谷車両基地に保存され、車両は、毎年交通フェスティバルにて公開されています。

